

平成20年度 普及に移す農業技術（第1回）

〔分類〕普及技術

〔成果名〕ねぎのネギアザミウマ防除にハチハチ乳剤およびモスピラン水溶剤が有効である。

〔要約〕ねぎのネギアザミウマ防除にハチハチ乳剤の1,000倍液またはモスピラン水溶剤の2,000倍液を散布する。両剤は蚕毒が強いので、桑園付近では使用しない。ハチハチは水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養魚池に飛散・流入するおそれのある場所では使用しない。

〔担当〕農業技術課

〔部会〕病虫部会

1 背景・ねらい

ねぎのネギアザミウマは近年の高温傾向により県内での発生が増加傾向にある。そこで本種に対する防除薬剤を検討した。検討したハチハチ乳剤およびモスピラン水溶剤は、きゅうりのアザミウマ類防除やキャベツ・レタスのアブラムシ類防除剤として既に普及しており、安定した効果が望める剤である。

2 成果の内容・特徴

(1)ねぎのネギアザミウマ防除にハチハチ乳剤の1,000倍液またはモスピラン水溶剤の2,000倍液を散布する。

農薬登録内容

ハチハチ乳剤

〔一般名及び成分含量〕 トルフェンピラド 15%

〔毒性〕人畜毒性：劇物 [魚毒性] C類

〔対象作物に対する適用登録状況（平成20年10月3日JPPネット確認）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10a当り散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルフェンピラドを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミウマ、ネギコガ、シロイチモジヨトウ、さび病	1000倍	100～300L	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内

モスピラン水溶剤

〔一般名及び成分含量〕 アセタミプリド 20%

〔毒性〕人畜毒性：劇物 [魚毒性] A類

〔対象作物に対する適用登録状況（平成20年10月3日JPPネット確認）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10a当り散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミウマ	2000倍	100～300L	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内)

3 利用上の留意点

<全体>

(1)葉のカスリ状の食害痕を見つけて発生初期に防除を行う。

(2)ネギ類が隣接して栽培されている場合には、一斉防除を行い。ほ場周辺の雑草にも発生するので、除草を徹底する。

<ハチハチ乳剤>

- (1)植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の表裏に十分散布する。
- (2)周辺作物（はくさい、だいこん、かぶの幼苗期及びこまつな、チンゲンサイなどの軟弱野菜）にかかると薬害（葉の色むら、波打ち、黄化、生育抑制）を生じるおそれがある。
- (3)本剤は蚕毒が強いので、桑園付近では使用しない。
- (4)眼および皮膚に強い刺激性があるので、取り扱いには十分注意する。
- (5)水産動物に強い影響を及ぼすので、養魚田および養殖池等周辺での使用は避ける。

<モスピラン水溶剤>

- (1)本剤はネオニコチノイド系の殺虫剤で、速効性と強い浸透移行性を併せ持つが、同系統剤の過度の連用は避ける。
- (2)ミツバチ、マルハナバチに対する影響は比較的少ないが、マメコバチには影響があるので注意する。
- (3)特に蚕毒が強いので、桑にかからないよう桑園付近では使用しない。
- (4)眼に対して刺激性があるので、取り扱いには注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

- (1)平成20年に山形村現地ほ場で試験を実施した。ハチハチ乳剤およびモスピラン水溶剤ともに無処理区に比較して防除効果が認められた。
- (2)薬害は認められなかった。

表1 ねぎのネギアザミウマに対するハチハチ乳剤の防除効果

(平成20年、農業技術課、松本農改)

供試薬剤	希釈倍率 処理量	反復	10株あたり生存虫数			補正密度指数		薬害
			散布前	2日後	7日後	2日後	7日後	
ハチハチ乳剤	1000倍 300L/10a	1	4	1	6			無し
		2	11	0	10			無し
		3	7	0	6			無し
		平均	7.3	0.3	7.3			3.5
モスピラン水溶剤	2000倍 300L/10a	1	17	0	15			無し
		2	13	1	8			無し
		3	4	0	8			無し
		平均	11.3	0.3	10.3			2.2
無処理	-	1	7	9	22			
		2	5	4	9			
		3	4	6	3			
		平均	5.3	6.3	11.3			100.0

場所：東筑摩郡山形村下竹田 現地農家ほ場。耕種概要：品種「ホワイトスター」、定植・移植期：3月22日。栽培様式：畦幅95cm、株間2cm。区制：1区17平方メートル、3反復。処理：平成20年7月2日に背負い式動噴を用いて10aあたり300リットル散布（展着剤ミックスパワー1000倍加用）。調査：散布直前および散布2・7日後に各区10株の中心2葉について、寄生成・幼虫を数えた。薬害の有無は随時肉眼観察。

$$\text{補正密度指数} = \frac{\text{処理区の散布後密度} \times \text{無処理区の散布前密度}}{\text{処理区の散布前密度} \times \text{無処理区の散布後密度}} \times 100$$

6 参考データ

表2 ねぎのネギアザミウマに対するハチハチ乳剤の防除効果（平成14年、日植防研）

供試薬剤	希釈倍率 処理量	調査 項目	1株あたりの生存虫数（3区45株平均）				補正密度指数			薬害
			散布前	3日後	7日後	14日後	3日後	7日後	14日後	
ハチハチ乳剤	1000倍 充分量	幼虫	0.6	0.1	0.6	1.8				無し
		成虫	1.6	0.3	2.1	3.6				
		合計	2.2	0.4	2.7	5.4	6.5	22.3	37.1	
モスピラン水溶剤	2000倍 充分量	幼虫	1.1	0	0.7	3.9				無し
		成虫	1.4	0.3	3.8	7.5				
		合計	2.5	0.3	4.5	11.4	4.3	32.7	69	
無 処 理	-	幼虫	0.7	3.1	9.2	10.1				
		成虫	2.1	4.7	6.2	8.4				
		合計	2.8	7.8	15.4	18.5	100	100	100	

注) 場所：茨城県牛久市 日本植物防疫協会研究所露地ほ場。耕種概要：品種「越谷黒一本葱」
定植・移植期：平成14年4月11日。栽培様式：畦幅100cm、株間5cm。区制：1区16平方メー
トル、3反復。処理：平成14年5月28日に背負い式動噴を用いて充分量散布（展着剤新グラミン
5000倍加用）。調査：散布直前および散布3・7・14日後に各区15株について成虫数、幼虫数を調
査した。薬害の有無は随時肉眼観察。

7 その他特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

平成20年度農薬普及展示圃試験、2008年（平成20年度）、民間受託